

1 平成21年6月の消費者物価指数等

- 広島市総合指数（101.3）は前月比で2か月連続の上昇。前年同月比は3か月連続で下落。
- 生鮮食品を除く総合指数（101.3）は前月比で3か月ぶりの上昇。前年同月比は3か月連続で下落し、下落幅（▲1.4）は比較可能な昭和45年以降で最大となった。
- 食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数（99.4）は前月比で3か月ぶりに上昇。前年同月比は3か月連続で下落。

2 総合指数、生鮮食品を除く総合指数、食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数

	指 数	前月比 (%)	前年同月比 (%)
総 合 指 数	101.3	0.1	▲1.4
生 鮮 食 品 を 除 く 総 合 指 数	101.3	0.1	▲1.4
食 料（酒類を除く）及び エネルギーを除く総合指数	99.4	0.1	▲0.5

3 前月からの動き

～主に食料、住居、交通・通信が上昇。光熱・水道は下落。～

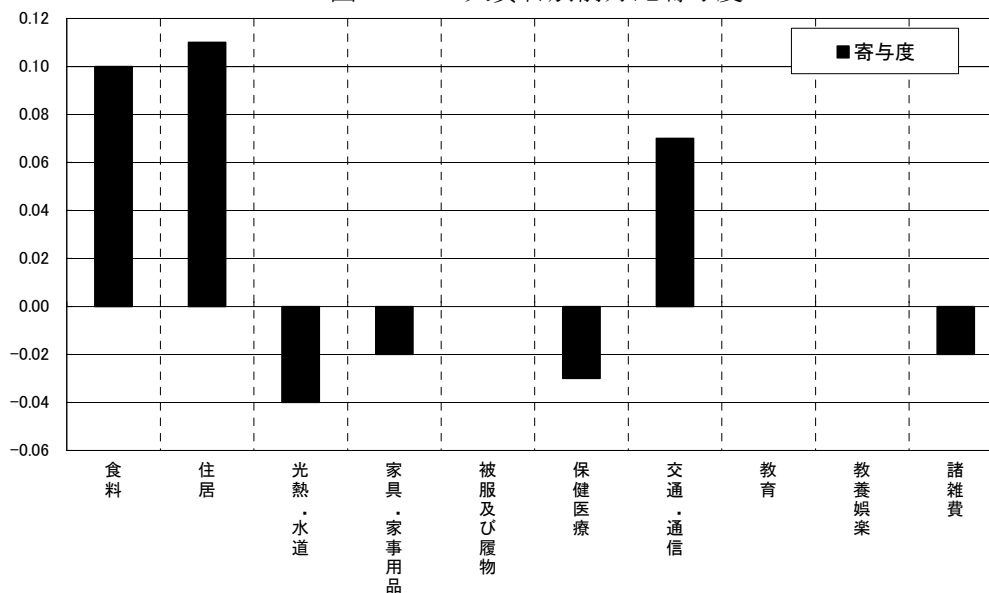
（1）10大費目の動き

	総合	食料	住居	光熱・ 水道	家具・ 家事用品	被服及び 履物	保健 医療	交通・ 通信	教育	教養 娯楽	諸雑費
指 数	101.3	105.1	100.8	106.6	88.3	107.5	97.9	97.6	106.0	95.0	102.1
前月比 (%)	0.1	0.4	0.6	▲ 0.6	▲ 0.6	0.0	▲ 0.6	0.4	0.0	0.0	▲ 0.3
寄与度	0.17	0.10	0.11	▲ 0.04	▲ 0.02	0.00	▲ 0.03	0.07	0.00	0.00	▲ 0.02

（参考）主な要因となっている10大費目について、寄与の大きかった中分類項目

食 料：魚介類（前月比4.1%，寄与度0.1）等
住 居：家 賃（前月比 0.5%，寄与度0.08）等

図1 10大費目別前月比寄与度



（注）寄与度：物価全体（総合）の上昇（下落）に、各費目がどれだけ影響したかを示したもの。本来、寄与度の合計は、総合指数の前（年同）月に対する変化率となるが、四捨五入の関係で一致しない場合がある。

(2) 総合指数に対する寄与の大きかった中分類項目（寄与度順）

上 昇		下 落	
項 目（主な品目名）	前月比	項 目（主な品目名）	前月比
魚介類（いか、あじ 等）	4.1%	野菜・海藻（トマト 等）	▲2.5%
自動車等関係費（ガソリン 等）	1.1%	電気代	▲1.4%
家賃（持家の帰属家賃〔木造中住宅〕 等）	0.5%	身の回り用品（指輪 等）	▲3.7%
果物（さくらんぼ 等）	8.4%	室内装備品（カーテン 等）	▲4.9%
設備修繕・維持（浴槽 等）	0.9%	医薬品・健康保持用摂取品（漢方薬 等）	▲1.4%

（参考）寄与の大きかった品目（上位2位）

上昇：ガソリン、持家の帰属家賃〔木造中住宅〕 等

下落：電気代、カーテン 等

4 前年同月からの動き

～交通・通信、光熱・水道が主な下落要因で、3か月連続で下落。～

(1) 10大費目の動き

	総合	食料	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被服及び履物	保健医療	交通・通信	教育	教養娯楽	諸雑費
前年同月比(%)	▲1.4	0.5	0.1	▲3.3	▲5.3	1.0	▲1.2	▲6.7	0.9	▲2.0	0.2
寄与度	▲1.35	0.11	0.02	▲0.23	▲0.17	0.06	▲0.05	▲0.96	0.04	▲0.20	0.01

（参考）主な要因となっている10大費目について、寄与の大きかった中分類項目

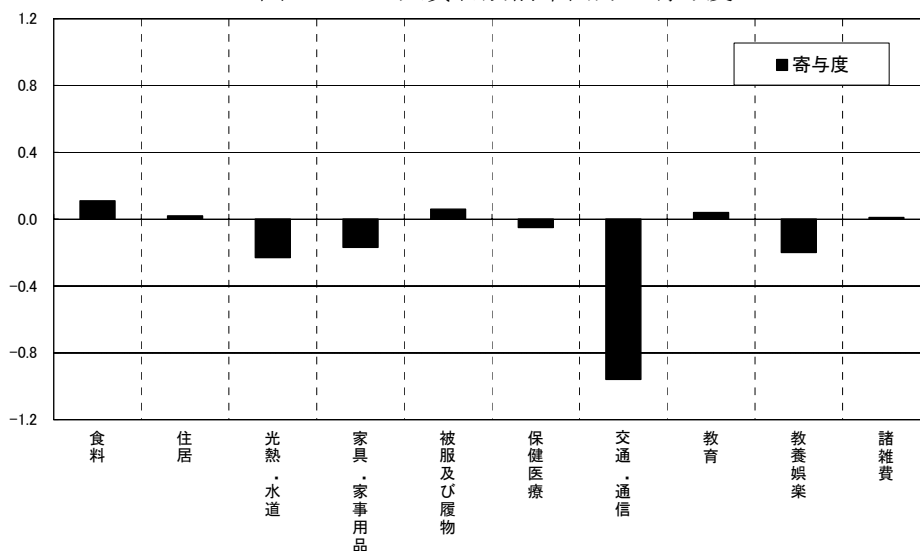
光 熱 水 道：他の光熱（前年同月比▲41.3%，寄与度▲0.2），

交 通 ・ 通 信：自動車等関係費（前年同月比▲11.1%，寄与度▲0.88）等

教 養 娯 楽：教養娯楽用耐久財（前年同月比▲26.6%，寄与度▲0.14）等

教養娯楽サービス（前年同月比▲1.8%，寄与度▲0.11）等

図2 10大費目別前年同月比寄与度



(2) 総合指数に対する寄与の大きかった中分類項目（寄与度順）

上 昇		下 落	
費 目（主な品目名）	前年同月比	費 目（主な品目名）	前年同月比
洋服（ワンピース〔春夏物〕 等）	3.5%	自動車等関係費（ガソリン 等）	▲11.1%
魚介類（たらこ 等）	2.6%	他の光熱（灯油）	▲41.3%
菓子類（キャンデー 等）	2.7%	教養娯楽用耐久財（テレビ〔薄型〕 等）	▲26.6%
外食（カレーライス 等）	0.9%	教養娯楽サービス（外国パック旅行 等）	▲1.8%
教養娯楽用品（トレーニングパンツ 等）	2.2%	家庭用耐久財（ルームエアコン 等）	▲12.3%

（参考）寄与の大きかった品目（上位2位）

上昇：トレーニングパンツ、たらこ 等

下落：ガソリン、灯油 等

総合的に下落基調

6月分速報値では広島市の総合指数（101.3）は前年同月比（▲1.4）と3か月連続で下落し、全国平均の5月報（100.6）でも（▲1.1）と4か月連続で下落し、デフレ懸念が高まっています。

そこで、中長期での動きをみるために、過去3年の広島市の各指数の推移をみてみました。

各指数については、平成20年に大きな上昇をみせた「エネルギー指数」と「生鮮食品を除く食料指数」を、また、物価の基調を比較する観点から「食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数」を取り上げ、それぞれ比較してみました。

デフレとは

デフレとはデフレーション(deflation)の略で、物価水準が継続的に下降する現象のことで、インフレーションの逆。

また、不況による物価の下落によって企業収益が落ち、賃金や雇用に不安が生じ、さらに購買意欲（需要）が減少し、結果さらに企業収益が落ち、賃金雇用が縮小するという悪循環を「デフレスパイラル」といいます。

図1 「総合指数」については平成19年後半から上昇基調で推移し、平成20年11月からは下落基調となり、現在的水準は大きな上昇をみせた平成20年に比べると下落していますが、依然として平成18,19年の水準を上回っています。

図2 「エネルギー指数」については原油価格の大きな変動を受けて平成19年6月頃から上昇し、平成20年8月には過去最高水準にまで上昇しましたが、平成20年9月以降は急速に下落し、平成21年5月以降は過去3年の水準を下回って推移しています。

図3 「生鮮食品を除く食料指数」については原材料高等により平成19年後半から上昇し、平成21年に入ってからほぼ横ばいとなっていますが、過去3年の水準と比べると依然として高い水準で推移しています。

図4 「食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数」については、平成21年4月以降は過去3年間の中でも最も低い水準となっています。

図1 広島市総合指数の推移

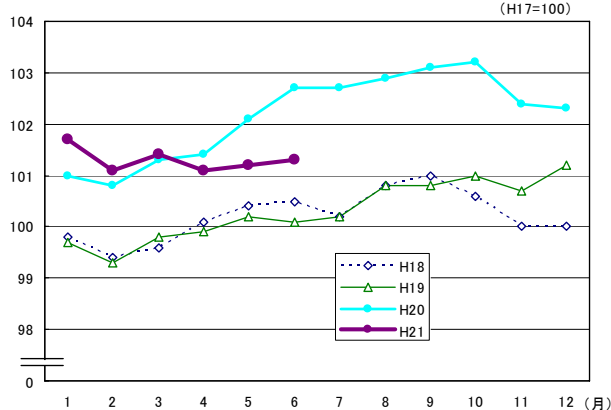


図2 広島市エネルギー指数の推移

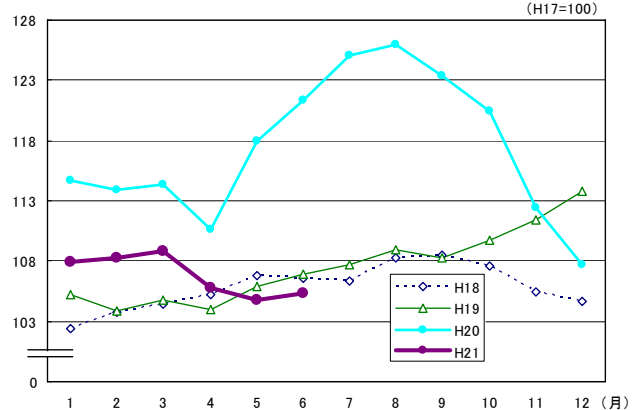


図3 広島市生鮮食品を除く食料指数の推移

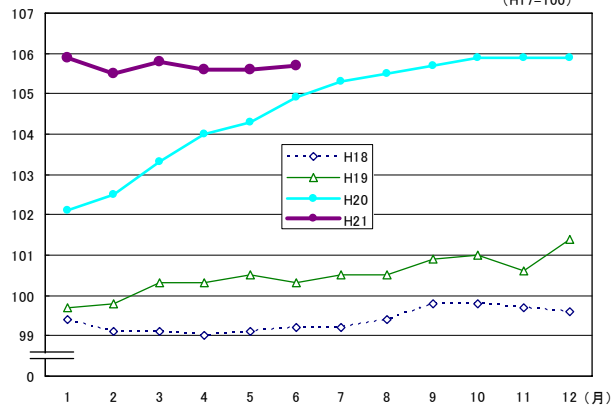
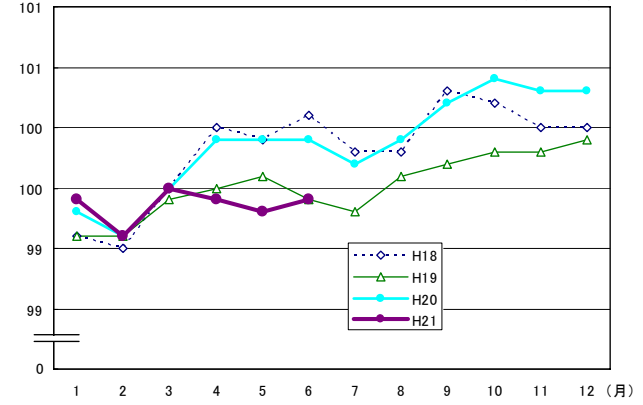


図4 広島市食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数の推移



これら、広島市の各指数の推移から、「総合指数」は下落基調にあるものの平成18,19年の水準を上回り、「生鮮食品を除く食料指数」については依然として高い水準を維持していることが分ります。

しかし「エネルギー指数」を中心に総合的には下落しており、とくに物価の基調を示す「食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数」が低い水準であることから、デフレ懸念は払拭できない状況にあり、今後の物価動向には注意が必要です。